

〔編集後記〕

千葉医学雑誌第85巻1号を原著2件、症例報告1件、話題1件、学会報告4件、雑報1件の構成でお届けします。原著2件は先ず、伊藤先生が脳MRIによるT2高信号域の個数差を自発的脳ドック受診群と企業受診で比較検討し、健康に対する意識の違いを統計学的に解析しています。横井先生は構造化レポートと言われる新しいシステムを内視鏡施行中のハンズフリー環境に用いる有用性について述べております。秋田先生らによる症例報告は皮膚腫瘍の稀な3例について記述しています。話題は中岡先生らによるサステイナブル環境健康科学集中講義の開催報告です。学会報告はそれぞれ、胸部外科例会、泌尿器科例会、麻酔科例会、千葉緩和研究会です。雑報として、関根先生らによる癌臨床試験のデザインと倫理-第Ⅲ相試験の問題点について述べています。いずれも読者の方々の知的好奇心を満たし、諸先生方の意気込みが伝わってくる力作です。是非とも御一読の程宜しくお願い申し上げます。

近年、頻繁に若者の理科離れが叫ばれています。医学部は別格として、工学部や理学部への進学を希望する学生数が年々減少しています。生涯獲得賃金の多寡を考えると、文化系に進学する学生が多くなることも止むを得ないことです。しかし、私達が子供の頃に、当時の科学雑誌や空想科学小説を読んだ時の心躍る、知的好奇心を揺さぶる感動を現代の若者に与えられないことも一因と考えられます。彼らの好奇心を満たし、なおかつ平易な研究成果を表示することは、現代の科学者の責務と思わざるを得ません。

ここで、平易で驚くべき研究成果を求めるべく、視野を宇宙に向けて参りますと、ガリレオ・

ガリレイが初めて望遠鏡を星空に向けてからちょうど400年が経過した本年2009年は「世界天文年」に定められましたが、その記念すべき本年初頭に極めて興味深いニュースが飛び込んで参りました。

土星探査機カッシーニが2006年に行われた16回目の接近で、衛星タイタンの北極近くに湖のように見える地形を多数発見しました。また別の地域でも見つかったこのような湖の一つは地球のオンタリオ湖に形や面積が近い為、正式ではありませんが、タイタンのオンタリオ湖と命名され、赤外線のスเปクトル分析から液体エタンからできた湖ではないかと考えられました。エタンは炭素2個と水素6個で1分子を構成している物質で、地球上では気体ですが、標準大気圧下では -88.6°C で液化し、 -183.6°C で凝固します。タイタンの表面温度は -180°C ほどで、エタンは地球上の水と同じ状況の振る舞い(相転移)をする可能性が指摘されています。地球上で生命に不可欠な水が、タイタン上では別の生命形態の維持にエタンに取って代わられているかもしれません。

タイタンの生命体が、オンタリオ湖のエタン(水)辺で、山々の固体のエタン(雪)を背景に打ち寄せるエタンの波を望みながら、日光浴ならぬ土星光浴をしている様を想う時、科学が齎した成果に感動し、科学する心が持つ力に魂を振るわせることが出来ます。

科学者の一員として道半ばではありますが、常に新鮮な驚きと初心を忘れずに、出来るかぎり広い視野を持って、真摯な姿勢で、若者に感動を与える研究を続けて行きたいと願うものです。

(編集委員 龍岡穂積)